

1. 京北地域・病院の現状

京北地域の現状

- ▶ 人口は減少していき、**京北地域の総人口は2045年には2020年の半分に**なると予測されます（4,767人→2,787人）。
- ▶ 高齢化が進み、**2030年には65歳以上高齢化率が50%を超過**、2045年には60%近くになることが予測されます。
- ▶ 人口減少に伴って入院患者および外来患者が減少していき、**入院患者数は2045年までに30%減少、外来患者数は2045年までに40%減少**することが予測されます。

京北病院の現状

京北病院の位置づけ	・ 京北地域唯一の病院 として、救急医療をはじめ、地域に根差した医療を提供。
将来患者推計	・ 人口減を上回るペースで入院患者数が減少 。
入院完結率 外来完結率	・ 入院の地域完結率は20%程度、外来の地域完結率は40%程度であり、 入院・外来の双方で流出率が増加 。
救急搬送状況	・ 京北エリアの救急搬送は年300件程度であり、軽症患者を中心に 半数弱が京北病院に搬送 。
入院患者の主な疾患	・ 近年は熱中症など 短期入院の患者が増加 。また、高齢者の炎症・閉鎖性骨折が多い。

2. 京北病院の課題

- ①京北病院
 - ▶ 京北地域の人口が減少し、また、患者の流出率が増加していることから、**病床稼働率が41.2%（2023年度）**と低い状態となっています。
 - ▶ 一般病棟の入院診療単価が30,396円、地域包括ケア病棟の入院診療単価が35,741円であり、**機能と単価が逆転**している状況です。
- ②附属診療所（黒田、宇津、細野、山国）
 - ▶ **各診療所の実患者数（2023年度）は9～15名**と少なく、大幅な利用者の増加は予測されません。また、診療に京北病院から医師を派遣する必要があります。
- ③介護療養型老人保健施設
 - ▶ 利用率は、年々低下傾向となっています。
 - ▶ 運営費交付金・負担金は充てられないため、**採算のとれる運営**が不可欠となります。
- ④法人全体の経営状況を踏まえる必要性。

3. 京北病院の果たす役割

より一層愛される京北病院

安心・安全な医療の提供 × 京北病院の持続可能な運営

医療的機能

- ▶ 地域需要の約25%を担っており、**現状の外来機能の維持**が望めます。
- ▶ 2030年時点で1日32.2人の入院患者が見込まれるうえ、京北地域唯一の入院機関であることから、**現状の入院機能の維持**が望めます。
- ▶ 京北地域は京都市の総面積の約4分の1と広いため、オンライン診療の実施等、**在宅医療の強化**が望めます。

介護的機能

- ▶ 京北地域の人口が減少する一方で、要支援・要介護認定者数は、80歳以上が2035年時点で約85%を占めると予測されます。そのため、在宅・介護の需要から、**近隣の介護施設等との連携強化**が望めます。
- ▶ 訪問看護や訪問リハビリといった**在宅機能の強化**が望めます。

運営・経営

- ▶ 安心・安全な医療が提供できるよう**持続可能な運営・経営**が望めます。そのためにも、地域連携を強化する等、病床稼働率の向上が望めます。

